

雨森精翁 あめのとう、舊松江藩儒。文政五年五月二十一日出雲國松江生れ、  
 明治十五年九月十六日歿（八二一八二）。舊姓妹尾、講謙、字若恭、通  
 稱謙二郎。別號精齋、老雨、雨隱、鶯谷、鶯里。天保九年大坂に出で  
 篠崎小竹、藤澤東暎等ついでに師事。次々ついで昌平坂學問所に入り、佐藤一齋、  
 史積良齋等ついでに學ぶ。十四年歸郷して儒員に列す。嘉永四年養正塾を開  
 き、藩學教授となりて藩侯、世子の侍講に任じ、のち藩政に參與。明  
 治二年八公議人となるも、病を以て辭し、歸郷。十一年亦樂舎を設けて  
 子弟を教授。

著書に『日本政記劄記』全四冊（明治十年九月大谷仁兵衛・杉本甚助  
 出版、同盟書房梓）、『標纂十八史略校本附録』（別製本・明治十二年  
 十一月京都・佐々木慶助出版）、『標纂十八史略校本』全二冊（明治十  
 二年十一月京都・佐々木慶助出版）、『便蒙日本政記纂語講義』全三冊  
 （明治十五年四月）（西樓藏梓）等。岩成虎夫等『老雨雨森精翁の傳銘』  
 （平成五年十一月吉田島根・二嶋榮

刊）がある。

